

平成27年度 加茂市算数・数学部 活動報告

部長 伊藤 好美

1 研究主題

「学力向上に向けた算数・数学授業のあり方」

2 研究の概要

研修は、加茂市の小中合同で実施。

(1) 第1回研修会（8月26日）

- ・ 数学科学習指導案検討、研究テーマに関する取組情報交換（レポート持ち寄り）

講師：田上小学校 教頭 平山 誠先生

(2) 第2回研修会（11月6日）

- ・ 合同授業研究：授業者 須田中学校 石原 朋之先生

指導：顧問 若宮中学校 教頭 小林裕史先生

3 研究の実際

(1) 模擬授業形式の指導案検討

中1単元「比例と反比例」の指導案に従い、部員が生徒になって模擬授業を実施した。

○ご指導

- ・ 指導案では、生徒の実態から付けたい力を明確にし、そのための手立てを明文化する必要があること。

- ・ 子どもが主体的に学ぶためのキーワードは、「笑い」「対話」「協働」。



(2) 研究授業の実際

協議会は、3グループに分かれて、本時の「有効な手立てと工夫」「改善すべきところ」等を視点にし、KJ法で話し合いをした。

○協議内容

- ・ 「視力とランドルト環の直径にはどのような関係があるか」という課題は、生徒の学習意欲を高めるものであった。

- ・ 実際に環の直径を測定したときに誤差が出たことで、反比例の関係がとらえにくかったという意見と、誤差を測定前に確認しているので問題ないという意見が出た。

○ご指導

- ・ 誤差の許容により、課題の難易度は高くなるが、生徒は発言しやすくなった。理科などでも測定誤差があり、問題意識をもたせるよい課題だったと言える。
- ・ 集団の思考プロセスの可視化（ホワイトボードなどで）が大切。個→拡散→収束→個（振り返りは自分の言葉で確認すること）を行う。



4 成果と課題

模擬授業形式の検討会を行うことで、授業者は本時の授業のイメージをより具体的にもちやすくなったといえる。「勉強が分かるけれど、嫌い」（勉強嫌い）をなくすという県の課題解決に向け、日々の教材研究に努めていきたい。